



「イワクラツアー IN 岡山」の報告

佐藤 光範

平成20年9月、神戸六甲山で行われた「イワクラサミット IN 神戸」に参加した時、本部 柳原サンから「平成21年早々のイワクラツアーは岡山で」とおわれ、参加していた岡山の男性四人（岡島・高木・野崎・佐藤）は「岡山まで見に来て頂けるなら企画しよう」とその場でOKを出しました。

帰国後の企画討議は ① 開催日時 ② 参加人数の推測 ③ バス代・宿泊の費用 ④ 見学コース に及びました。

① 日時は本部の意見もあり、1月31日（土）2月1日（日）で、世話人四人とも不都合な日ではなかった。

② イワクラは全国どこにもあり、「わざわざ岡山まで来られるのか」との疑念もあり、見込み予定人数は20人前後ではないかと話しました。

③ バスは毎年バス見学会でお願いしている小企業の観光会社社長に「二日間と云っても、時間的には正味夫一日分の様なものだから」と交渉して安くしてもらった。

泊まりは、「遺跡を巡る会」の仲間・岩田サンが、厚生年金体職センター（ホテル・ウエルサンピア）のセンター長であることから、相談したら快く受けて下さりご本人も参加を希望された。

④ ホテルが兼ハタの地名の所にあることから、今回はハタ（畑・島等）の地名が集中している兎島で、然も、711年に兼公イロダが始めて京都伏見に稲荷を勧進したその「稲荷を祀る制度」が数多くある田辺島海岸を一日に遊ぶことにしました。

そして原ハタ氏が、岡山には弥生時代から居た事、原ハ

夕氏族が道教思想から立石

(不動不田！不老長寿を意味し象徴する)を幣座として祀っていた事を勉強するため、

「ホテルに6時には帰って1時間の勉強会を持ちたい」事、
「懇親会を2時間持ちたい」

事を再びホテルで相談した時、
岩田サンが「来られる人に一つでも多く見てもらうため、

12時の集合を午前11時にしては」「バスの中で食べる弁当はホテルで用意する」と、

更に、「正本神社の幣座まで登るなら、そこで日の出が拝める様に夜明け前にホテルの送迎用バスを出します」との提案があり有難いことでした。

こうした計画を会報イワクラ14号でご案内しましたら、次々と申し込みがあり、中型バス28席は直ぐに埋まり、最終的には補助席を使って満席の34人の参加で

締め切りました。

一日目のイワクラ見学

岡山駅11:00ー玉野市ー倉敷市児島ー総社西ホテル18:00ー

園1 白狐正一位稲荷

園2 藤井の稲荷

園3 立石前で記念写真

園4 臥龍稲荷

園5 伏見稲荷

園6 八大魔王

園7 六境稲荷

園8 木里神社

園9 大岩大権現

18:00ー19:00

総社市長款迎挨拶

・弥生時代から古墳に居た原ハタ

氏の勉強会(地元の人も

数人参加)

19:00ー21:30

楽しい懇親会(四国からお一人懇親会に参加)



園1 白狐正一位稲荷



園2 藤井の稲荷



図3 立石前で記念写真



図5 伏見稲荷



図4 臥龍稲荷



図6 八大魔王



図8 木堂神社



図7 穴橋稲荷



図9 大岩大権現

二日目のイワクラ見学

「夜明け前正木神社」ホテル―倉敷市玉島―岡山市―岡山駅15:00

0

図10 麻作殿(正木)神社

図11 正木山の日の出「思わず

「万歳」

図12 石巻神社の二神体頂上部

図13 第一明神で記念写真

図14 岩野イワクラ神社

図15 矢吹神社

図16 最上稲荷奥の院

図17 稲荷壇丘墓の上で

スケジュール通り午後3時には岡山駅で解散出来ました。

皆様にご帰宅されて、「感想を頂戴しました。」「一番多かった感謝の場面は「正木山でご来光を拝んだ瞬間だった」と、ハタ氏族に関心がある方もおられて色々ハタ氏へのご教示を頂きました。」



図11 正木山の日の出、思わず「万歳！」



図10 麻佐城（正木）神社



図13 第一明神で記念写真



図12 石堂神社のご神体頂上部



図15 矢塚神社



図14 岩陣イワグロ神社



図17 熊野境石墓の上で



図16 熊上程利貞の院